

「計測線付実験装置との干渉」復旧後の
1次主冷却系の運転実績及び炉心構成要素の炉内取扱作業実績について

1. 概要

本資料は、2007年に発生した「計測線付実験装置との干渉による回転プラグ燃料交換機能の一部阻害」に対する復旧作業（2015/6/23完了）後における、1次主冷却系の運転実績及び燃料交換機による炉心構成要素の炉内取扱作業実績について説明するものである。

2. 1次主冷却系の運転実績及び炉心構成要素の炉内取扱作業実績

（1）1次主冷却系の運転実績

1次主冷却系は2ループで構成され、原子炉運転中においては、主循環ポンプは2ループ共に定格流量（1,538m³/h/1ループ）一定で運転される。原子炉停止中（冷却材充填中）においては、定格（100%）流量又は約20%流量で循環運転される。

復旧作業後において、1次主冷却系は、以下の定格（100%）流量運転実績を有する。当該運転に異常等はなかった。

2017/2/27～3/3	（主循環ポンプモータ点検に伴う運転）
2017/3/13～4/4	（制御棒駆動機構調整※1に伴う運転）
2018/3/8～9	（主循環ポンプ速度制御装置点検に伴う運転）
2022/3/4～3/25	（制御棒駆動機構調整※1に伴う運転）

※1）スクラム動作試験を実施し、結果良好

（2）炉心構成要素の炉内取扱作業実績

復旧作業後、2021年3月に燃料交換機の動作確認を実施している。当該動作確認時には、計測線付実験装置の切離し失敗位置（ラック R16）にて、制御棒（CR0903）を取り扱い、着地レベル等を確認することで、炉心構成要素の炉内取扱に問題ないことを確認した。

3. 今後の対応

今後も原子炉容器内における異物の存在を考慮し、万一の炉心構成要素と異物との干渉により異変が生じる可能性に留意して、炉内取扱時においては、炉心構成要素の着地レベル等の監視を継続して実施する。

以 上